

作成年月日	令和3年9月8日
作成部局課室名	農政環境部農林水産局畜産課

## 需要に即した神戸ビーフ供給力強化対策の推進状況

### 1 趣旨

国内外の旺盛な神戸ビーフの需要に応えるため、牛舎整備による但馬牛繁殖雌牛の増頭促進や労力軽減により高齢農家の廃業を抑えるための減頭抑制、受精卵移植による肥育素牛増産対策を推進しています。更なる需要拡大対策として、輸出先国の求めに見合った出荷・と畜体制の整備や国内外への情報発信を強化していきます。

### 2 令和2年度の繁殖雌牛の増頭実績

- (1) 但馬牛繁殖雌牛の増頭に取り組んでおり、令和2年度目標は16,000頭（「ひょうご農林水産ビジョン2030」）としています。
- (2) 令和2年度の但馬牛繁殖雌牛は14,145頭（(公社)全国和牛登録協会調査）と、前年（14,060頭）から85頭増加しました。
- (3) 前年度の増頭578頭に比較して、微増に留まった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の発生により子牛価格が急落したため、①生産者の増頭意欲が低下したこと、②高齢牛の廃用を進めて若い牛を増やしたことによると分析しました。

### 3 神戸ビーフ供給力強化対策の実施状況

#### (1) 繁殖雌牛の増頭促進対策

新規就農者や規模拡大を行う生産者の牛舎整備や繁殖雌牛の導入を支援しています。また、「畜産参入支援センター」を設置し、就農希望者や異業種からの参入の相談に対応しています。

#### (2) 繁殖雌牛の減頭抑制対策

高齢農家の子牛の預かりや分娩直前の繁殖雌牛を供給する繁殖経営支援センターを運営する全農兵庫県本部の活動を支援しています。

#### (3) 神戸ビーフの増産対策

酪農家等の雌牛に但馬牛の受精卵を移植し、但馬牛の子牛を増やすことにより、神戸ビーフの増産に取り組んでいます。

また、県立農林水産技術総合センター作成の「但馬牛肥育マニュアル」による肥育農家の飼育管理技術の向上などにより、神戸ビーフ認定率は年々上昇しています（R1年度：87.5%）。

### 4 神戸ビーフの需要拡大対策

全国に例のない県内一貫生産体制の下で、輸出を継続するほか、神戸ビーフ館（新神戸）や県立但馬牧場公園の但馬牛博物館（新温泉町）などを通じて但馬牛・神戸ビーフの歴史やおいしさ、厳格なブランド管理等に係る情報発信を続けていきます。

特に、但馬牛博物館では、今年6月に「農業遺産体験館」を整備し、日本農業遺産である「兵庫美方地域の但馬牛システム」を紹介しています。

### 5 今後の神戸ビーフ供給力の推進

神戸ビーフの枝肉や但馬牛の子牛価格は新型コロナウイルス感染症の発生前の水準にまで回復していないものの、神戸ビーフの輸出は回復（R2年度：約43t、対前年度121%）し、ECサイトの販売等も好調です。

ついては、経済活動・日常生活が正常化した際は、更なる需要回復が見込まれるため、引き続きこれまでの神戸ビーフ供給力強化対策を推進していきます。

## 【参考】

### 需要に即した神戸ビーフ供給力強化対策の推進状況

#### 1 趣旨

国内外の旺盛な神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭促進や減頭抑制、受精卵移植による肥育素牛増産対策を推進するとともに、更なる需要拡大対策として、輸出先国の求めに見合った出荷・と畜体制の整備や国内外への情報発信の強化を図っていく。

#### 2 令和2年度の繁殖雌牛の増頭実績

- (1) 国内外の旺盛な神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭に取り組んでおり、令和12年度目標は16,000頭（「ひょうご農林水産ビジョン2030」）としている。
- (2) 令和2年度の但馬牛繁殖雌牛は14,145頭（(公社)全国和牛登録協会調査）と、前年から85頭の増加に留まった（表1）。
- (3) 前年度の増頭578頭に比較して、微増（85頭増）に留まった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い子牛価格が急落した後、軟調に推移してきたため、①生産者の増頭意欲が低下したこと、②高齢牛を廃用し世代交代が進んだことによると考えられる（表2）。
- (4) 神戸ビーフの輸出は回復し、ECサイトの販売等も好調であることから、経済活動・日常生活が正常化した際は、更なる需要回復が見込まれるため、引き続きこれまでの神戸ビーフ供給力強化対策を推進する。

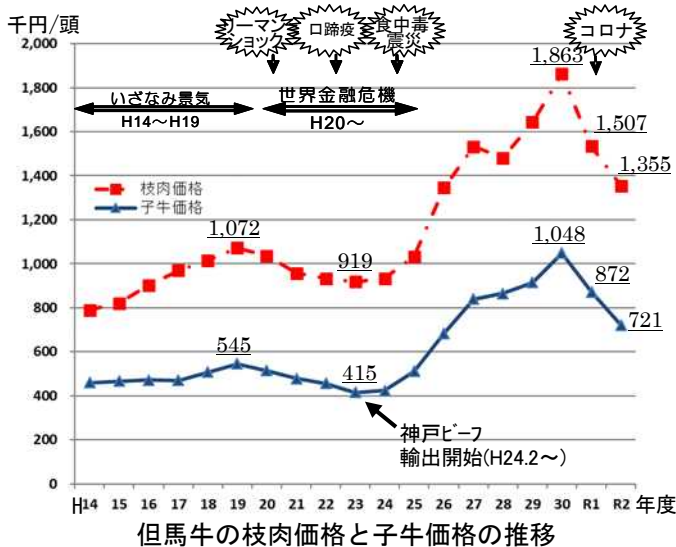
【表1】但馬牛繁殖雌牛頭数

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R12 目標
頭数	12,793	12,925	13,158	13,482	14,060	14,145	16,000
前年比	—	+132	+233	+324	+578	+85	—

※各年度2月1日現在

【表2】年齢別の繁殖雌牛頭数と平均年齢

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2
2歳以下	1,786	2,105	2,286	2,600	2,803	2,933
9歳以上	4,410	4,706	5,062	5,212	5,316	4,853
平均年齢	7.62	7.65	7.71	7.54	7.44	7.22



#### 【枝肉価格の動き】

※価格は景気、牛肉に関する事件・事案の影響を受ける。

- ① H15-19：牛肉のトレーサビリティ制度の確立により全国的に上昇
- ② H20-23：景気低迷、口蹄疫の影響等による消費減退で下落
- ③ H24-30：各種増頭対策の充実と総合的推進の結果、V字回復し、過去最高の水準で高値維持
- ④ R1：和牛肉の高騰に伴う消費の鈍化により価格が低下
- ⑤ R2：新型コロナウイルス感染症により価格が続落した一方、米国・アジア等では値頃感から輸出量は増加

#### 【子牛価格の動き】

枝肉価格と連動して推移し、H24以降、雌牛導入の支援の充実やブランド力強化、輸出等の総合的な対策により、V字回復し、高値維持していたが、R1年度以降枝肉相場と連動して下落傾向

#### 【今後の展開】

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、昨年度の枝肉・子牛価格は弱含みで推移したが、R3年度は、枝肉・子牛価格がともに前年を上回り、緩やかに回復しつつある（枝肉価格（4-8月）1,401千円/頭、子牛価格（4-8月）730千円/頭）。

今後、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進むにつれ、経済活動の本格化に向けた期待が高まっていくと考えられることから、増頭意欲の回復が期待される。

### 3 神戸ビーフ供給力強化対策の実施状況

#### (1) 繁殖雌牛の増頭促進対策

##### ア 新規就農者や規模拡大者による牛舎整備

国や県事業等を活用した牛舎整備を支援している。

令和元年度からは、1戸あたりの牛舎の平均整備規模が50頭以上となり、大規模な牛舎整備が多くなっている。

【表3】牛舎の整備状況

年度	国・県事業		制度資金		平均整備規模
H29	11戸	363頭	1戸	7頭	30.8頭/戸
30	3戸	56頭	1戸	20頭	19.0頭/戸
R1	4戸	250頭	2戸	55頭	50.8頭/戸
2	5戸	267頭	0戸	0頭	53.4頭/戸
3(計画)	6戸	330頭	—	—	55.0頭/戸

##### イ 繁殖雌牛の導入支援

県事業や国事業を活用した繁殖雌牛の導入を支援している。

近年、1,200～1,300頭で推移していたが、令和2年度は1,700頭近くまで急増した。

【表4】補助事業を活用した導入頭数

年度	県事業	国事業等	計
H29	900頭	440頭	1,340頭
30	889頭	328頭	1,217頭
R1	900頭	314頭	1,214頭
2	900頭	799頭	1,694頭
3(計画)	900頭	700頭	1,600頭

##### ウ 新規就農者の状況

毎年、10名以上の独立または雇用就農がある。

【表5】新規就農者の状況

年度	独立就農	雇用就農(うち法人)	計
H29	5人	5人(4人)	10人
30	4人	13人(10人)	17人
R1	8人	11人(7人)	19人
2	11人	5人(5人)	16人

##### エ 各地域における増頭戦略会議の開催

生産者、JA、市町、県機関等で構成する増頭戦略会議を県内16地域で組織し、新規就農者の支援や規模拡大に向けた補助事業等の活用を推進している。

##### オ 畜産参入支援センターによる参入支援

令和元年度より畜産課内に「畜産参入支援センター」を設置し、総合窓口として市町、JA等と連携して、施設用地の掘り起こしや紹介、補助事業による支援策の活用相談等を行っている。

令和2年度は、民間企業1件が淡路市で繁殖雌牛5頭を導入し、経営を開始した。

また、今年度は繁殖・肥育一貫経営農家1戸が確保した施設用地2か所において、規模拡大を進めている。

【表6】畜産参入支援センターを通じた取組状況

参入年度	場所	飼育頭数(R2年度末)	目標
R1	加西市	繁殖雌牛8頭、肥育牛2頭	繁殖・肥育50頭
2	淡路市	繁殖雌牛5頭	繁殖雌牛24頭

## (2) 繁殖雌牛の減頭抑制対策

### ア 繁殖経営支援センターの運営支援

高齢化した農家等の労力を軽減するため、子牛を預かって育成したり、分娩直前の繁殖雌牛を供給する繁殖経営支援センターの運営を支援している。

### イ ヘルパー組織の運営推進

家畜市場への子牛出荷のサポート等を担っているヘルパー組織に対し、国ではヘルパー利用料、県では作業の省力化・効率化のための器具機材の導入を支援している。

## (3) 神戸ビーフの増産対策

### ア 受精卵移植による神戸ビーフ素牛の生産拡大

【表7】受精卵移植による但馬牛生産頭数

但馬牛繁殖雌牛から採卵した受精卵を酪農家や交雑種を肥育する農家等の雌牛に移植する受精卵移植の普及を進め、但馬牛肥育素牛の生産拡大に取り組んでいる。

年次	頭数
H29	292頭
30	292頭
R1	300頭
2	360頭

なお、不足しがちな受精卵を補うため、県立農林水産技術総合センターを通じた受精卵供給体制も確保している。

### イ 神戸ビーフの認定率の向上

【表8】神戸ビーフの認定頭数と認定率

県立農林水産技術総合センターが作成した「但馬牛肥育マニュアル」の普及定着に伴い、肥育農家の飼育管理技術の向上が図られたことや育種改良によって、神戸ビーフの認定率は年々上昇している。

年度	認定頭数	認定率
H29	5,557頭	82.1%
30	5,383頭	83.9%
R1	5,523頭	87.5%

【表9】「但馬牛<sup>ぎゅう</sup>」、「神戸ビーフ」の定義

歩留等級	「A」又は「B」											
肉質等級	1	2	3	4				5				
脂肪交雑	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ブランド	28～60ヶ月齢			「神戸ビーフ」 雌：270～499.9kg、去勢：300～499.9kg								
	「但馬牛 <sup>ぎゅう</sup> 」											

- ① 本県の県有種雄牛のみを歴代に亘り交配した但馬牛<sup>うし</sup>を素牛とし、
- ② 繁殖から肉牛として出荷するまで神戸肉流通推進協議会の登録会員（生産者）が本県内で飼養管理し、本県内の食肉センターに出荷した牛

## 4 神戸ビーフの需要拡大対策

### (1) 県内一貫体制による海外輸出の拡大

神戸ビーフの輸出は、平成24年2月の開始以降、これまでに23カ国・地域に拡大した。令和元年度には、和牛マスター食肉センター（姫路市）が米国・EU等への牛肉の輸出認定施設となり、県内一貫で但馬牛・神戸ビーフが輸出できる体制が整備された。今年度は和牛マスター食肉センターが中心となってコンソーシアムを設立し、米国・EUが要求する動物福祉やと畜方法に対応しつつ品質の高い牛肉を生産するとともに、現地プロモーションの開催等によって牛肉輸出の拡大を図っていく。

【表10】神戸ビーフの輸出先と輸出量

単位：kg

地域	欧州	北・中南米		アジア						オセアニア	合計
	EU等※1	米国 カナダ	メキシコ	台湾	香港	シンガポール	マカオ	UAE	その他※2	オーストラリア	
R1年度	11,578	5,339	3,687	5,084	2,336	2,213	1,478	1,064	2,317	475	35,571
R2年度	9,600	9,549	646	9,350	3,823	2,348	2,131	1,478	1,905	2,267	43,097

※1 ドイツ、モナコ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スイス、イギリス、スペイン、イタリア

※2 フィリピン、ベトナム、タイ、ロシア

## (2) 神戸ビーフ館や但馬牛博物館における情報発信力の強化

### ア 観光ガイドを対象とした神戸ビーフセミナー

情報発信拠点として平成30年度に新神戸（コトノハコ神戸）に整備した「神戸ビーフ館」において、令和2年度に観光ガイドを対象としたセミナーを開催し、但馬牛・神戸ビーフの歴史や魅力について理解醸成を図り、観光客等へ情報発信力の強化を図った。

### イ 小中学校での県産和牛肉給食の提供と但馬牛出前講座

但馬牛を素牛とする県産和牛肉を学校給食で提供する事業では、県内の小中学校給食に神戸ビーフ等を提供するとともに、食育教材を配布した。さらに、5つの小学校で出前講座等を行い、但馬牛・神戸ビーフの歴史や美味しさについて啓発した。



小学校での但馬牛出前講座

### ウ 但馬牛博物館「農業遺産体験館」のオープン

今年6月、県立但馬牧場公園の但馬牛博物館に「農業遺産体験館」（新温泉町）をオープンした。今後は日本農業遺産に認定された「兵庫美方地域の但馬牛システム」を核として、但馬牛・神戸ビーフを一層広く国内外に発信し、更なる需要拡大を図る。

## (3) 神戸ビーフの美味しさのPRとブランド管理

### ア モノ不飽和脂肪酸等美味しさ指標を活用した但馬牛改良と有利販売

「美味しさ」の指標であるモノ不飽和脂肪酸<sup>※1</sup>、小ザシ<sup>※2</sup>のデータを県内食肉市場で収集し、生産現場、食肉流通現場に分析結果を提供するとともに、但馬牛の改良に活用している。

令和2年度は、全国に先駆けて牛肉の美味しさの指標のひとつである「モノ不飽和脂肪酸」含有量を県下の主要食肉市場で表示販売し、神戸ビーフの有利販売につなげた。



モノ不飽和脂肪酸の測定

※1 オレイン酸、パルミトレイン酸等不飽和結合が1か所ある脂肪酸で、牛肉の風味に影響する。

※2 細かいサシ。筋肉内脂肪のうち細かい脂肪交雑粒子。

### イ 但馬牛・神戸ビーフ応援大使等と連携したSNSによる国内外への情報発信

今年度は但馬牛・神戸ビーフ応援大使（元ラグビー選手の大畑大介氏、サッカー選手の岡崎慎司氏）やインフルエンサーと連携し、SNS動画等による神戸ビーフの美味しさと魅力を国内外へ情報発信する。

### ウ DNA鑑定によるブランド管理の徹底

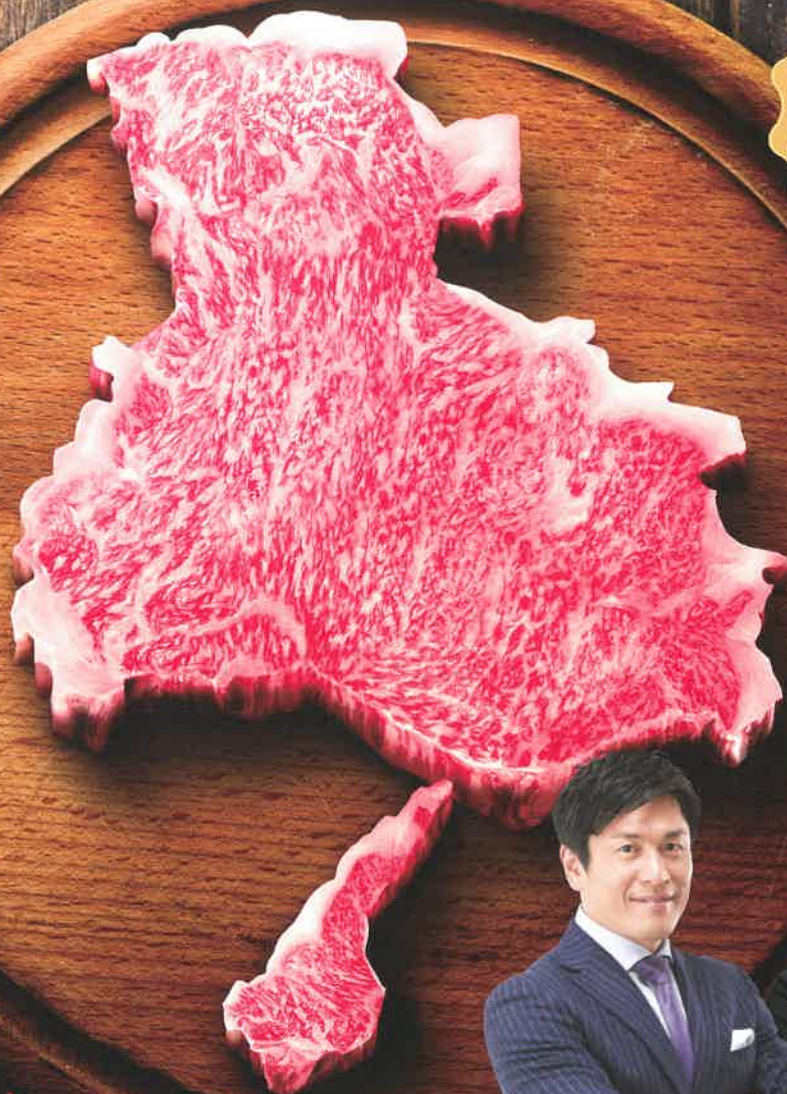
神戸肉流通推進協議会と連携し、DNA鑑定検証システムによるブランド偽装の防止などにより、厳格なブランド管理を推進している。

〈問い合わせ先〉

農政環境部農林水産局畜産課肉用牛振興班 TEL 078-362-3454

# MORE★MORE

モ～★モ～兵庫ブランド牛キャンペーン



但馬牛・神戸ビーフ応援大使  
元ラグビー日本代表  
大畑 大介さん

但馬牛・神戸ビーフ応援大使  
サッカー日本代表  
岡崎 慎司さん  
写真:BAKU AKAZAWA

合計  
2,000名様に!

ご購入またはご飲食1万円<sup>(税込)</sup>ごとに  
ビーフ券5,000円分が当たるチャンス!

期 間 2021.9.9<sup>木</sup> THU - 10.31<sup>日</sup> SUN

応募方法 上記期間中にキャンペーン参加店舗(HP参照)にて税込1万円以上ご購入またはご飲食ごとに応募券1枚を進呈。応募券記載のQRコードを読み取り、シリアルコードを入力の上、必要事項を入力してご応募ください。

■ 当選者の発表は、ビーフ券の発送をもって代えさせていただきます。  
※各店舗に割り当てられた応募券がなくなり次第、店舗ごとに終了させていただきます。※スマートフォンのみでの応募になります。タブレット及びフィーチャーフォン、パソコンは非対応です。※ビーフ券の利用期間・利用時の注意事項は、ビーフ券にてご確認ください。※11月上旬以降、順次発送となります。

但馬牛・神戸ビーフ	湯村温泉但馬ビーフ	本場但馬牛・ 本場経産但馬牛
黒田庄和牛	加古川和牛	淡路ビーフ
丹波篠山牛	三田肉・三田牛	PREMIUM姫路和牛

協 力 神戸肉流通推進協議会 / 湯村温泉但馬ビーフ流通振興協議会 / 本場但馬牛銘柄推進協議会  
みのり農業協同組合 / 加古川和牛流通推進協議会 / 淡路ビーフブランド化推進協議会  
丹波ささやま農業協同組合 / 三田肉流通振興協議会 / 姫路畜産荷受株式会社

キャンペーン参加店舗および詳細はコチラ ▶  
<http://www.kobe-niku.jp/beefcp2021>



お問い合わせ | ○兵庫県農政環境部農林水産局畜産課078-362-3454(平日9:00~17:00) ○神戸肉流通推進協議会(事務局 JA全農兵庫畜産部)078-927-0327(平日9:00~17:00)